

「ソルベンシー・マージン基準の見直しについて」

米山 高生

1. 方向性に関する認識

- ① 最終的な姿としては、市場規律を重視し、経済的価値ベースの健全性評価への移行を目指す。具体的には、企業ごとのプロジェクションモデルの採用に対するインセンティブを配慮した制度設計を目指す。そのために何らかの「行程表」が必要である。
- ② 現行のソルベンシー・マージン基準の見直しにあたって、矛盾を是正し精緻化をはかると同時に、計算要素の選択理由やリスク係数の決定理由などを明確に示す。

2. 5つの視点

- ① 目的性
ソルベンシー・マージン基準は、そもそも何のためにあるのか？という原理的な議論。
非公開という考え方から、消費者にとってより有益な指標にという考え方で意見の幅が大きい。
公開のままだとすると、何らかの対策が必要か？
- ② 透明性
規制のトリガーとして利用するにあたっては、監督規制の透明性を担保できるような基準が必要。複雑でわかりにくい基準や多義的な解釈の可能な基準は避けるべき。
- ③ 厳格性（精緻化）
①の財務健全性の指標という目的、および監督規制の説明責任を担保するためには、基準が保険会社のリスクの実態と近い必要がある。つまり実態にあっているという意味で精緻化が要請される。ただし、精緻化は、学問論議ではないので、それ自体が目的ではない。むしろ①と②を担保するという意味において精緻であるならばよい。
- ④ 調和性
実務に過度なコストを強制することにより、企業の財務健全化に対する歪んだインセンティブを与えないように配慮。実務にあわせるということではなく、フィージビリティをテストしながら慎重におこなうということである。
- ⑤ 国際性
欧州の動きをはじめとして世界の動きを十分に考慮し、規制の国際調和性と自由化という点に配慮。

(以 上)